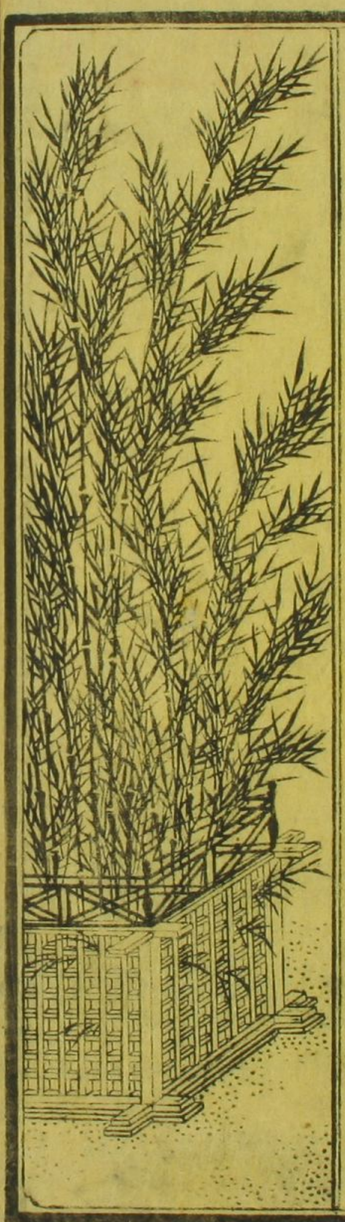
都林泉名勝圖會

一乾

逍遙文庫
文庫6
1875
1

地
8
1-16



都林泉名勝圖會

全部六冊

秋里籬島先生著述

山水の勝地は草木の枝葉に託うしめ草木あるを山水の風景を[illegible]

[illegible]是をのたうら[illegible]

[illegible]文贊[illegible]

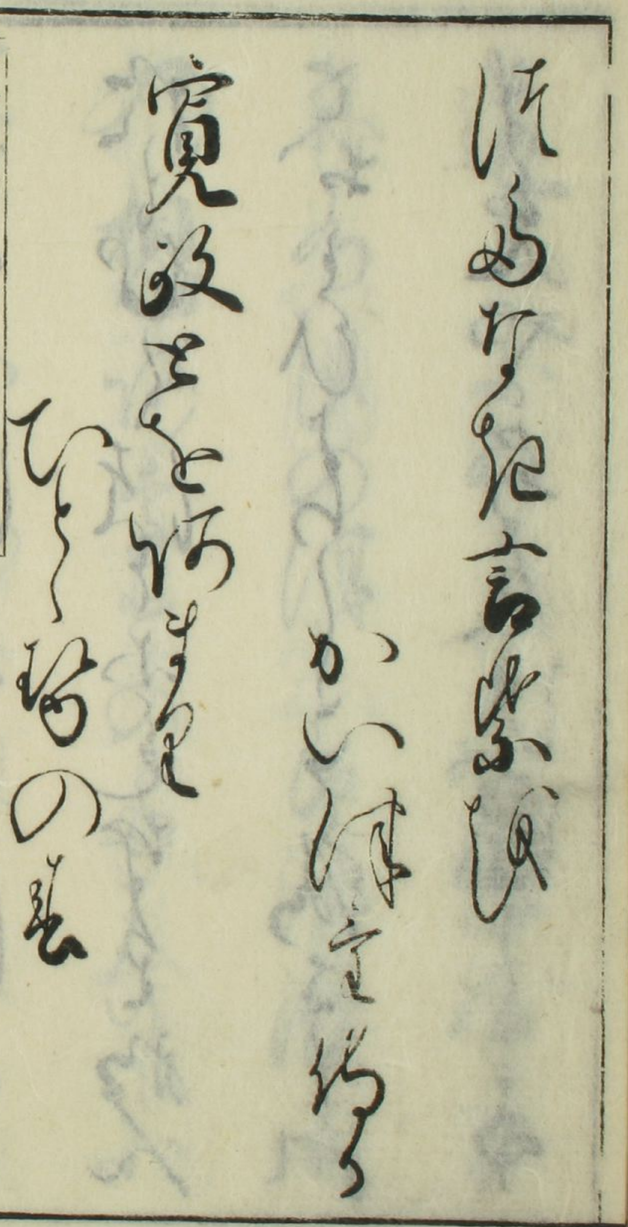
文庫6
1875
1

かすむ山水
はるのしらべ人ぞ
ゆかしき
ながめ見るに
ぬきすてし
蜘蛛の糸
雛鳥

紀海林泉
とよりて
ものがたり
ものがたり
書
都の人

遠きふあり毋や潘岳の
妹ろ氏の淫濮間
の想ひ者とのあまりふ
れなるおもひ忘れ難し
彼圖書を乃開て双帙

也なるこの同好の人まひろ
見あるふ所かるるにもふ
たもむくにをふもなきぬん
とおもひもしこの絵さしれ
ましやうろ感しこ



凡例

一此書ハ茅板築山庭造傳ヲ基ヤ〻京師四方名庭ハ林泉ハ殊ニ彩ル都林泉名勝圖會ト題書ヲ拙ケレドモ宮殿臺榭山閣水亭鰐舍蓬戸ノ林泉ハ頗多ク餘ハ他日緣ヲ需テ巡覽シ後編ニ備ン

一諸寺方丈書院ノ名畫名筆又ハ什寶重寶ノ體相ハ大畧ヲ書ヲ省ハ其寺院ノ莊嚴京師ノ美觀ヲ徒ラニ多クトモ除限アルヲ以テ具ニ記ス事能ハズ餘ハ寺僧ニ尋ネ詳ニ書ベシ

一勝地ニ列テ風流ノ圖ヲ强林泉ニ寄ヲ堵ノ風光ハ彰ヒ又典故ノ繪ヲ引ケ古人ヲ右ニ准ヒ所謂紫野茅ヶ伏水梅溪河内紅葉大堰川二船等ノ如シ

一林泉ニ古人ノ詩ヲ寄シ故ニ今時京師ニ於ケル名家ノ詩ヲモ需テ多ク圖中ニ釘ヲ其中ニ作者自筆ノ詩ヲモ載ル謙狂ヲモ亦古ヘニ准ス

一畫工ハ一筆ふあるべしハ圖毎の印章各姓名あり是とりて画師と解ふ新べし

一庭造の法則あるハ側の亭宅を除く画くまれハ林泉の規範とすべしの料あり法則豪野ハ舍屋を圖し風景専らなる又四季折々の花樹有るハ大畧一生樹多ハ古きを為ふ時節ふ寄るべきを画く多くハ梅櫻蓮楓あるの類へ

一法則ふ多遠景ハ收庭井ハ都て其遠景ハ圖し遠景不用意の庭ハ古しを省く又圖毎ふ人物の画れ小大あり其貌の小大ふよりて多林泉の廣狹ハ古ふ考べきあり

都林泉名勝圖會巻之壹

目録

神泉苑　七夕蹴鞠　相國寺
鶯宿梅　什寶　紫野　紫野茶毋摘
雲林院御遊　紫野　雲林院
大德寺　大雄殿　演法堂
土地堂　祖師堂　延藏
鶴樓　俗室　敕使門
明智門　寢堂　之解脫門
方丈　雲門菴　延龍軒
金剛軒　看雲亭　明月橋
宮池　梅橋　古叢松
瑞雲亭　達磨峯　什寶虫拂圖

塔頭繪様

大用菴　養德院　興臨院　總見院　大瑞寺　高桐院　金龍院　芳春院　清泉寺　梅岩菴　常樂庵　紫式部碑

德禪寺　松源院　竜源院　瑞峰院　黄梅院　正受院　玉林院　昌林院　寮舍　瑞源院　高林菴　孤遠庵　龍翔寺

如意菴　真珠菴　大僊院　聚光院　三玄院　大慈院　大光院　龍光院　龍泉菴　寸松菴　見性庵　碧玉庵　碧玉松　引接寺

本法寺　子ホ燃燈堂大念佛　十九箇條傳授　土地堂　大悟堂　赤松圓心塔　姪子社　紫西禪師揚鐘圖　靈洞院　四條の百〔illegible〕　真如院　真如水　七夕菴花

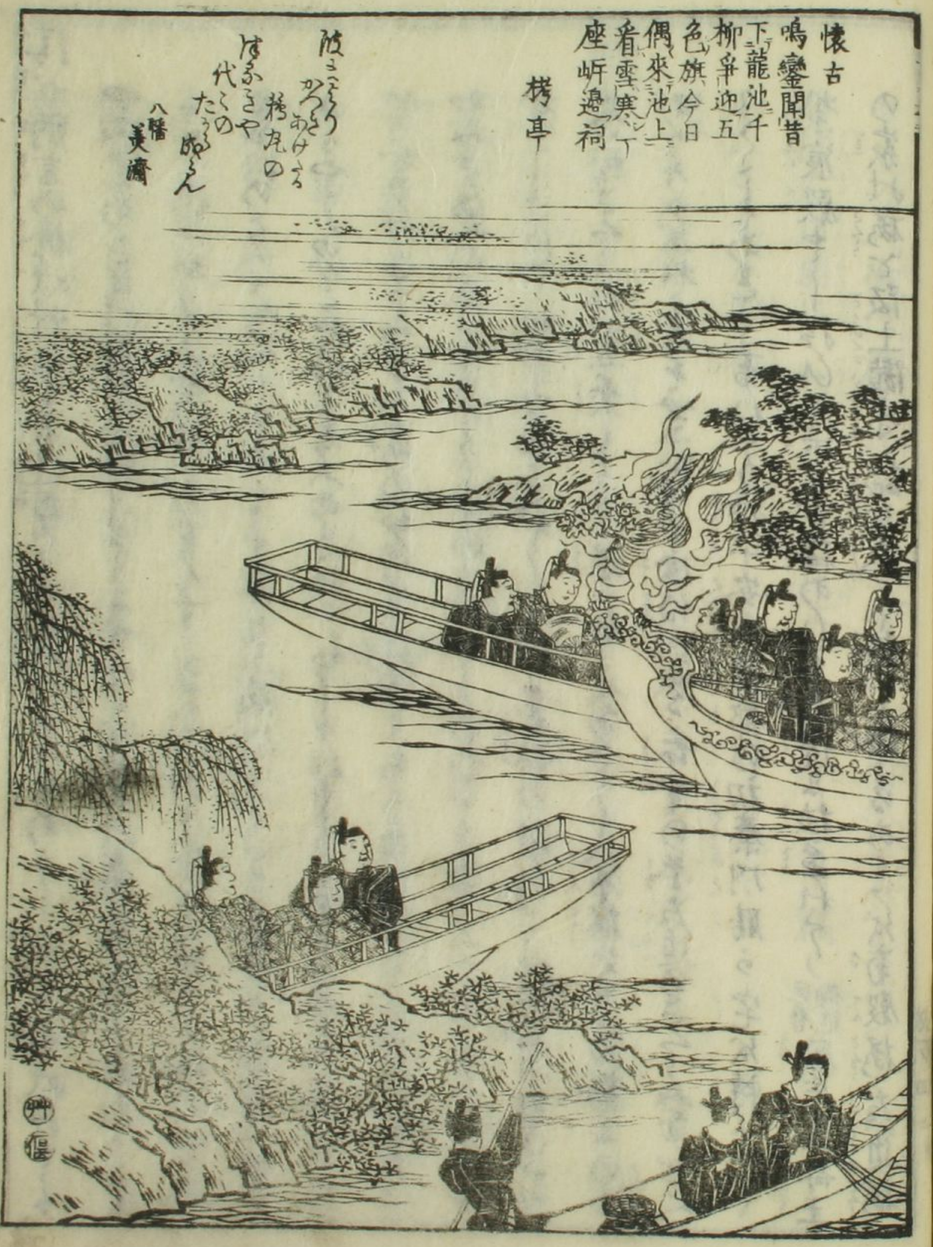
什寶　池坊　建仁寺　角山堂　鎮守　當山十景　十日姪子清　正傳院　祇園一宮　戲場顔相見　瓜實燈燈　西本願寺　盆燈燈

巴庭　七夕立花　佛殿　方丈　無盡燈　扁額　畫墨曬樹虫干圖　織田有樂茶亭　祇園橋由緑　本圓寺　烏帽子石　林泉　東本願寺

涉成園
釣叡院
遍照心院
圖卅圖
東林院
宝輪院　林泉
山吹岡市氏涌泉　烏石扁額
東鴻臚館趾
桂宮
方丈林泉　烏帽子石　書石
六孫王祭
南谷書齋幻華庵
茶亭
六條内裏
融大臣旧館
壺寶
實法院蓮池
東寺
沛教供箱

都林泉名勝圖會卷之一目錄終

神泉苑
御遊


懷古
鳴鑾聞昔
下龍池千
柳爭迎五
色旗今日
偶來池上
看雪寒ント
座岸邊祠
楼亭
八幡美濟

清少納言の枕草紙に云九月ばかり夜いとをかしうなりて虫の音もよわりぬれば

やみくもの月はなやかにはあらねどもあはれなるものなれば

ちゝもいとおかしう寒いがちになりゆくほどに

こがれのこゝろゝ有こゝろ地もいとさびたるに

こゝろやうあるこゝろをいとあはれにこゝろ

ぶかくおかしげなるをつゆ

かみざはへあがりこゝろ

おのゝこゝろとおのゝこゝろ

本は松さゝゝ松は五葉もこゝ

あるこゝろ世にあはれ

こゝろこゝろ書れこゝろ

紫宸殿をゝ

の家は橘と阪上瀧宇

詔に奉こゝ移ゝ

やもゝ

の須右近將監

かれもに

神泉苑は上古封境廣くゝ

天子遊覧の所乾臨閣と正殿こゝ

造営あゝ時は周文王の靈囿も

若女龍王あゝ

多く棟こゝ

文人おのゝ詩を賦ゝ

十日鳳凰乾隆閣の

祝ひ申こゝ

聽ゝ又菊宴ゆゝ

御階橘を橘左まで秦保國の後園は名ゆゝ年代こゝて後は德

勅を奉こゝ植繼あゝ右近橘と歸かゝ

都林泉の基ともも可ゝんや

ゝ庭やゝゝ

ゝ庭の

ゝ

ゝ

ゝ

後ッ〻園和の幡ふ就く樂を奏に内裏式相撲會うゝ少納言大舎人と共に
東の瀧ゝ上の橋頭ふ候ひて貞觀十八年六月ふ疫神を神泉苑ふ送る
是祇園會の藍觴ゝ初まる也義長ハ直言院ゝ参に出ゝ〻燒
上るゝ〻ゝ時法成就池と嘯を弘法大師ハ名女龍王を祈ゝて請雨の法を
りひ大下旱魃の慈を拔く感感を蒙る小野小町ハ和歌を詠ゝ〻ゝ感応
降〻〻驚ふ宣旨を奉く五位の爵を賜ハ白河院御遊の時ゝ〻ゝ
く感応あるふ稽池中ふ入く金環輪の太刀を拾ひ上るゝ〻ゝ銘を
鶴尾と名付く其外代々の帝り幸あり〻〻事数回ゝ中須明德應仁
の兵燹ふ罹く今ハ僅の林泉と成る志かハあれ共大内裏の遺蹟ふ載の
賜ゝ〻ゝ思ひ出る

本朝文粹　冬、日於神泉苑。同賦葉下風枝疎。　源順

神泉苑者禁苑之其一也。紅林地廣。吞楚
夢於胷中。緣池水高縮吳江於眼下。戶部
省侍郎以下。偷取暇豫千其間。盖亦禁渙
釣不禁吟詠也。觀夫葉隨風下。枝逐日疎。
梧楸影下。一聲之雨空灑鷓鴣背上。數片
之紅纔殘。蕭〻然颯〻然誠足以感耳目
者也。千時短晷已傾長庚將出。以文會友。
暫雖携風月之遊。退食自公。飽難玩林池
之妙。恨來暮而去早。請乘興以遺詞云爾

經國集　和海和上秋日觀神泉苑作　滋貞主

闇梨下自南山幽勅許令看上苑秋御路
蕭疎楊柳影遵行直到白沙洲廻瞻肅殺
無紛濁眼沸清泉一細流小嶺登攀頻見
鷲暗林拂入欲驚鳩三明湿照龍池閣千
道重迎秋薫樓法侶相隨喜樹下不殊菩
提大比丘

年中行事秀句

ちるやゝ〻ゝ神の泉苑そのくゝゆ紅葉をゆ紅のちりゝ成るゝ　宗時
さたちゆゝゝ正月ふ行ふ直言院ゝ神泉苑へ
出ゝ〻ゝ燒あるゝ法成就の池ゝ
の池とゝ也

七夕
蹴鞠

久方の天の川原の
橋まうも
たびあの星や
あいらくらん
岡田子葛陵

相國寺林光院

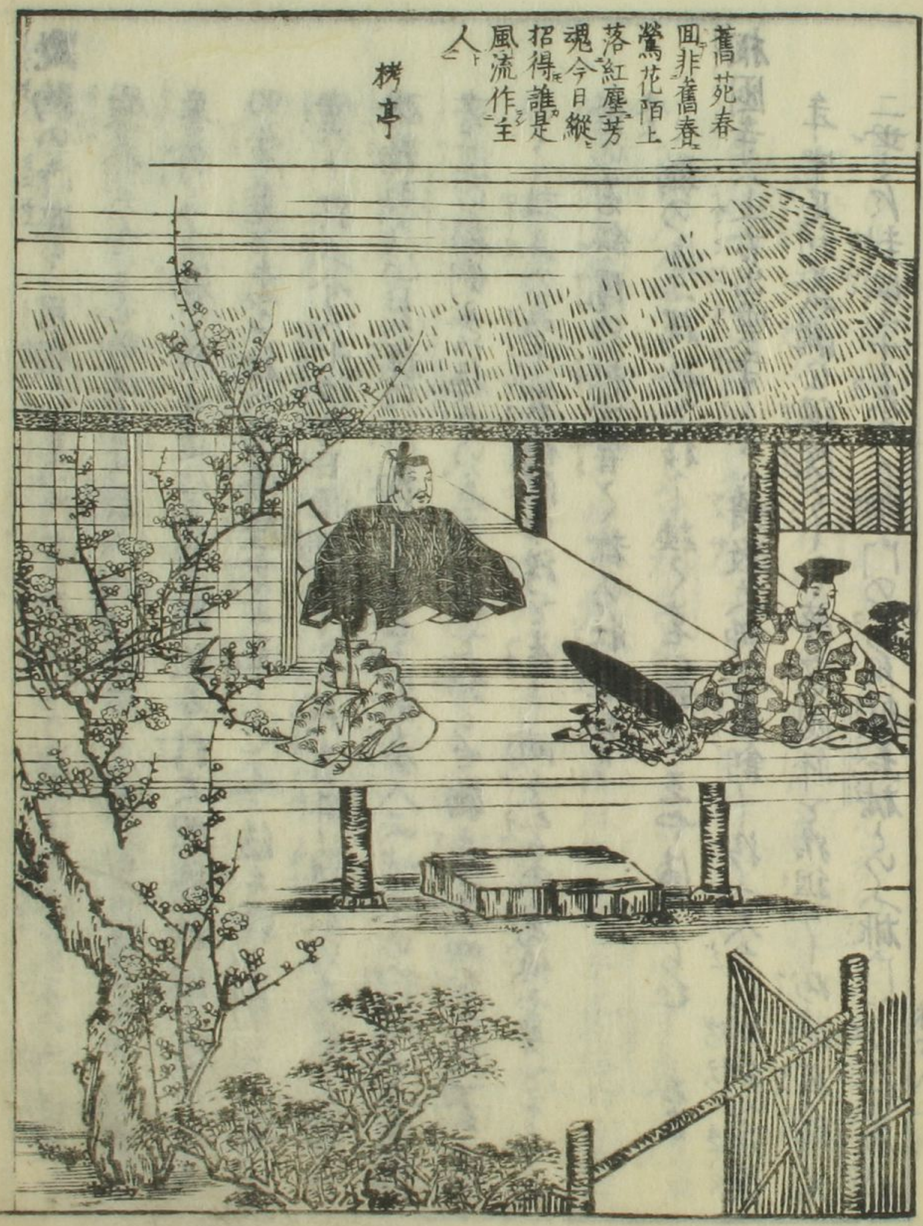
鶯宿梅

鶯宿梅

慶雲風花宜
年何年年年歎此
お懸首年一詠歌
天仗千載長寿
鶯宿梅

相國寺
維明

舊苑春
回非舊春
鶯花陌上
落紅塵芳
魂今日縱
招得誰是
風流作主
人



梅亭

蹴鞠の沛遊ゝ　用明天皇の沛宇庵士ゝ沒ゝく上宮太子の沛徒然を
慰奉らんとて宣卿ゝ且ゝ公家ゝ　埃裏　厥后　文武天皇大寶年中門裏ゝ
專りゝる鞠の神ゝ近江志賀郡松本村大明神祇躰猿田彦命
の牽竟ゝ奉る初ハ洛陽桂宮ゝ立ゝ　後ゝ羽上皇ゝ山道ゝ
賞ゝ移ゝ今ハ七夕の日順倒ゝ　花ゝ年雅波の家ゝ於く
鞠あり山貝ハ梶の沛鞠ゝ　雲上家ゝ入又地下の門人ゝ系沛
書院の極側ゝ種々の色あり鞠を飾ゝ也鞠庭ゝ四本の松茂ゝと
ゝく詳色の石千紫裾濃の袴ゝ　兩ゝ之ゝの高低ゝ身ゝ之ゝ
皆の者斜陽の影ゝ響く都の壯觀あり
鞠の庭ゝ柳ゝ移ゝ　植ゝ　ゝ八錦ゝ立ゝ　ゝ　ゝ　

紫野

若菜摘み

春の
野に
出て
若菜
摘む
我が
衣
に
雪は
降
りつ
つ

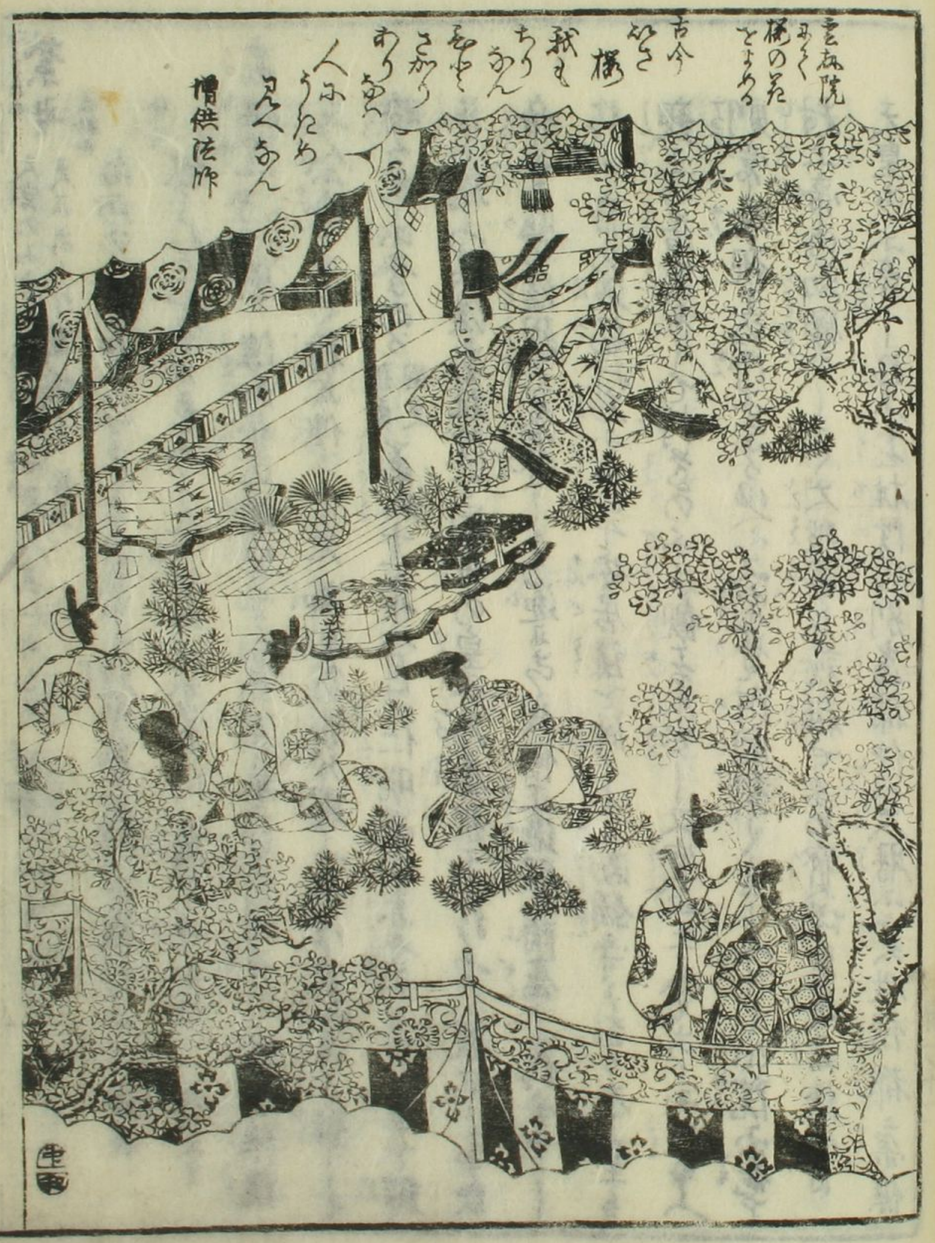
伊勢物語

紫野

思樂紫野于采
其芹是采是穫
薄蔦吾親思
樂紫野于采
其茅日之
永矣以遊
以遨以遊
以遨于紫
之野變兮
諸姬既都
且雅

佐野
意

雲林院
花見


雲林院
僧供法師

紫野　大宮の小方の北の方にあり　延喜十四年十月
後拾遺　天子まうに遊猟し給へ
白妙のとよみくくをとりちて祝ぎ初むるこの野ぶ　長秋
後古　移れるを妻成ぎてくんト野ゆ紫野ゆ川　廉坊く鳴かぬ　大宮大宮

雲林院　紫野原　淳和帝の離宮なり長九年紫野ゆ川幸し給ひ隋従
文人ゆ命じく詩成ぬ　御製の和歌賜へ其後雲林亭に帰して
時々ゆ幸ある　頌賦　国史　第和十一年八月　仁明帝も亦幸あり宴を群
臣ゆ賜へ其後雲林院と同帝の皇子ゆ廉親王ゆ給へ殿宅を改
帝ゆ遷の後親王落髪し遂ゆ此僧正遍昭ゆ附属し給へ舎ゆ
給へ帝の追福ゆ為ゆ毎年安居講を設けく勅願寺とする本堂ゆ
親王の居室ゆして持ちの所ゆ観音ゆ安し又空也上人もまくゆ住ゆ
則常康親王の御子なる也又定覚阿闍梨も年久しく此院ゆ籠り
村上帝の勅願とし又大般若ゆ讀誦せしゆ寶塔ゆ建立ゆ次ゆ
天皇ゆ幸し給へ雲林院の別当補せゆ天暦ゆ実性僧都康保

元年ゆ源徳公伊尹　干時参議従四位下　別当ゆ補せられき　圓融帝永観元年
勅して圓融寺を雲林院の側ゆ建立し　帝御位を退ゆ系融寺ゆ
宸居あり又崩じ給へ其時閑院左大臣退悼の歌ゆ
後拾遺　閑院の法皇うせ給ひ紫野にて葬送ゆ侍りけるに
栄花物語　所ゆ多くの日せさ多ひ半ゆ過ぎくよみ侍りける
紫の雲はかけても忍ひつゝ　朝光
今ゆ雲林院の西の一ゆ大皇墳あり又牡塚の小山町計ゆ塚なゆ
此字の地ゆ古昔廉親王の古墳なり　後醍醐
帝元亨四年雲林院の敷地を大徳寺開山大燈国師ゆ給へ故ゆ再興し
及び大徳寺の子院とする今ゆ本むらの面影もなく形ばかりゆ僅の伽
刹とする客殿彩画の一式ゆ狩野探幽探雪の画筆なり　融院も
ゆ滅び今より其後　義仁の乱ゆ
大原ゆ再興し
六帖
床のをゆくゆとりゆ月ゆ花の匂ひ　宗祇
名所
和歌所なる雲の林も古へ人の植ゑし花ゆ残れる　世人之
雲林院の桜も古へ人の植ゑけゆ　宗隆

雲林院者昔之離宮。今爲佛地。聖主玄覽之次。不忍過門。成功德也。侍臣五六輩。翫風流而隨喜。院主一兩僧。掃苔癖以恭敬。供奉無物。唯花色與鳥聲。拜謝有誠。唯至心與稽首而已。予亦嘗聞于故老曰。上陽子日野遊。厭老。其事如何。倚松樹以摩腰。習風霜之難犯也。和菜羹而啜口。期氣味之克調也。況年之閏月。一歲餘分之春。月之六日。百官休暇之景。今日之事。今日之爲。豈非爲無爲事乎。予雖愚拙。久習家風。迴轡有時。走筆無地。聊舉一端。文不加點云爾。謹序。

本朝文粹　冬日遊雲林院西洞玩紅葉　江以言

雲林院西洞者。天下之名區也。迎世事踐其兆域之者。毎至花春葉秋。莫非雲龍風虎。於是左親衛負外次將請暇霜杖。兼興風情。來遊此閒。蓋有以矣。次將槐露以承家。蓬砌以立操。文絲煌々。漢家之雌黄失色。筆力嶽々。唐室之雄伯差肩。干時屬玄英之已半。玩紅葉於其中。自秋及冬。送數日而深。出衰梧老柳。無一技之遺留。至夫飄飄無數。高下不定。落敷池中。風疊赤光赤色之浪。飛散佛上。霜添曼陀曼珠之花者也。既而當于紅螺之聲。忽暮。玄鶴之駕將歸。禮部郎中以言。拜溫官而含歡。對寒林而遺恨云爾。

大德寺　紫野にあり　禪刹　龍寶山と號す

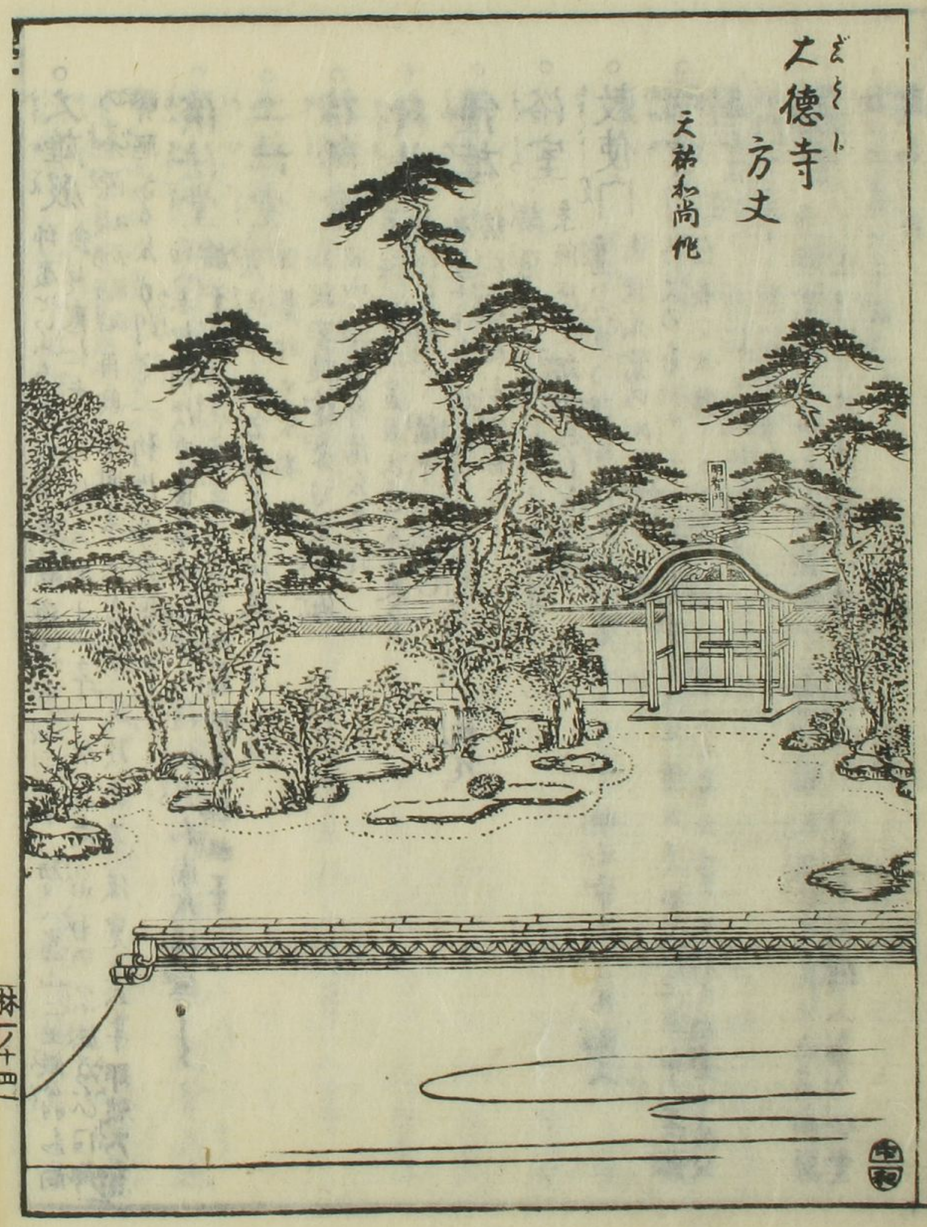
龍寶元年建

紺園は平安城の乾方紫野にあり。西は鷹峯に接し東は比叡を俯して船岡を南の畏とし賀茂川を小に接し地勢夷曠松檜蔚然として實に禪家無塵の淨域なり。大燒國師の闢く所なり。諱は宗峰。既に南浦和尚大應國師の小法を嗣く。蹤を洛東に居るに止めず。后に小椋の樵就赤松圓心剛村同じく則祐一院と創く。大燒國師と結ぶ參同の緇素日に多く月に場を

時に叡山の玄恵法印、心子其黨数人と偕く達磨宗と称せんやうく
競来りて向雅法変殺條に逮て、達磨宗峻の機鋒に尚る事恐れて
窟抵し、稽顙して弟子の礼を執る中、玄恵法印、禪に傾く事
厚く、直に方丈に営て、若罪に謝して宗印と云者師に帰崇して
諸堂を建て、禪刹とす、其頃花園法皇勅して入内に許し、輙
禪要を問て、奏対叡慮に恢ひ、忽龍庭に登て、法を談じ、興禪
大燈国師を賜へ、後醍醐帝、礼敬特に深く、朝廷、皆一の祈禱所
として、屢禁脚に法産を設け、国師に請て、附座説法あり、天皇自
皆子と称して、投機の偈及び著語等の宸筆を賜へ、元亨三年
天皇宸翰を深くれ、本朝無双の禪苑と称す
南山大燈国師名を宗峻、字を妙超と云、父播州浦上掃部助入道覚性也
赤松氏の次男、季房の女、浦上掃部助、筑前守多崇福寺の五世として、但州
覚性の室なり、是国師の母なり
祐徳寺を創して、建武四年丁丑臘月廿二日遷化、年六十、雲門菴に塔す

林一千三

○大雄殿 仏殿なり、釈迦牟尼の額、狩野孝信筆、創は慈仁寺殿の後文明十一年一休和尚の宗源、法名鶴鳴屋、再興して同年六月成就、又其後寛文八年、那波宗方の弊陋あるを以て、一新して今の堂なれども、初は赤松創、次亨徳年中、間瀬の後江月和尚の帰依、
○演法堂 稽古堂、正脇慶建立、元井画龍、将軍の撰幽筆
○土地堂 梵天帝釈及び大小神祇、伽藍神、安倍、陳海
○祖師堂 初祖菩提達磨、百丈、陳海、開山大燈国師、徐氏安倍
○経蔵 那波宗方建、蔵経紙、櫃中に蔵む
○鐘楼 慶長十巳年、杖益田宗蕃、頸元祥一新に、銘、茶建長言加書、張弟之筆、額、再興元和八年
○浴室 永師、灰屋紹由、建
○勅使門 舊は九重の陽明門也、南方正門、寛永十七年、明正帝、勅使朱駕の附られ、入内
○明智門 方丈の南の門、明智光秀建立、傳云、光秀、天正年中、其君信長公、公の殺し、冥福の祈り、勅使の門を明智門と名付、
○寢堂 再興、寛永七年、石州益田宗蕃、頸元祥、再興に、法名紹圓、又全斗と号、長門、戸に仕へ、八千石、公賜へり、仏堂初の建立の施主、詳なり


大德寺
方丈
天祐和尚作

○解脱門 俗ニ山門ト云 西ニ十一間南北六間 額金毛閣 張郎之筆 閣上彩画 長谷川等伯筆

本尊釋迦阿難迦葉十六羅漢を安置 釈迦三尊の像 十六羅漢を安置 畜龍翔寺天雄殿の安置仏 破壊に及んで畜山に移置十六羅漢を千利休の家門 今の三門は蓮華寺宗長の建立所 真後古漢和尚 千利休と勧進 閣を門上に設く

金毛閣梁棟銘

帝徳高輝視壽恢於萬歲 禮拝泉南利休居士修造

祖風益盛闡法門於無窮 住山洛北春屋宗園撰

春屋慶賀偈云

千門万戸一時開 月斧雲斤功大哉

踞地金毛高閣上 舉揚臨濟話頭來

連歌師宗長は宗祇の孫子なり 駿州藤田の人 宗屋軒宗長と号す 後今川義元の招請ふ 同州九子驛宗谷に幽居し享禄六年二月六日没 八十九 東海道名所圖会に悉く 宗長初出山 真後諸堂を経営し 悉く備はる いまだ山門成ぬ宗長云 一とせ 五十貫を施し 費用は 遊に秘蔵の珠菴と走る 真後 法華経 法華経 法華経

大德寺什寶虫干曬掛圖

運庵虛堂南浦三祖自賛畫像　三幅
大燈國師像（自賛）　二幅
（後醍醐帝御賛）
大燈國師投機ノ頌　一幅
大燈國師奮問（後醍醐帝下語　両筆）　一幅
後醍醐帝投機頌　一幅
大燈國師傳紫衣遺屬ノ語　一幅
大燈國師遺偈　一幅
大燈國師與徹翁印證　德禪什物　一幅
同　與徹翁ノ偈　〃　一幅
徹翁和尚與言外ノ偈　〃　一幅
同　遺誡偈　〃　一幅

林一ノ十六

徹翁（大祖正眼）禪師ノ偈　一幅
徹翁（天應大現）國師ノ偈　〃　一幅
大燈國師親写傳燈錄　合為十五冊　此巻
徹翁和尚親寫祿渕錄　德禪什物　一巻
同　写舍利記　一巻
後醍醐帝宸筆朗詠　一巻
大燈國師菩提講敷地證文（妙林院志中ニ在）　一幅
同　草書箋　二幅
中正藏主草書箋
古懐和尚草書箋
大德寺南禪等位牽號勅例（菊亭右大臣）
虛堂墨跡等附之記證

虛堂達磨忌拈香之墨跡　墨山果法院寄附

虛堂書簡　一幅

同　像　墨蹟　衍右帆賛　一幅

佛眼　像　自賛　一幅

淺水尾院宮筆和歌　二幅

大慧　像　一条院真筆　親王筆　一幅

觀音　像　月壺筆　一幅

觀音龍虎猿鶴　牧溪筆　五幅

十王　像　陸信忠筆　十幅

十六羅漢　像　兆殿司筆　十六幅

五百羅漢　像　禪月等所画　百幅

右ハ鎌倉末福寺の什物ニ其後相州小田原北条のゑ小入瑞溪寺ニ安置ス
小条氏ひゝく後秀吉ニ取上之ヲ京師大仏殿の寺宝と成大仏殿ニ古溪
和尚所ニ創ス故ニ總見院什物ニ成ル今方丈ニ存ス已上龍宝誌大意

徹翁像　上皇御筆　円通院殿

同遺誡偈　上皇御筆　円通院殿

徹翁號　勅使間

同遺偈　勅使間

印可狀　虛堂智愚

虛堂智愚

五山綸旨

元弘二年宸筆

南山遺偈　雲門庵

建武四年宸筆

元弘四年綸旨

南山法皇御傳授　南山法皇御傳授

南山法皇御傳授　南山法皇御傳授

南山法皇御傳授　南山法皇御傳授

○龍光院名畫墨蹟掛曬之圖

鳳凰十六幅

子昂之行墨蹟

葵舜舉

菊趙昌

葵舜舉

猫 王洞

牡丹 徽昌

孔雀 雪舟

四睡猫 顧愷之

四幅 夏明遠

山水 同

山水 同

山水 同

對幅

五祖 印月江賛

三祖 砥平石賛

初祖 端京叟賛

観音 月壺

二祖 心竺賛

四祖 逸樵隱賛

六祖 芝靈石賛

大燈假名文

宸筆大燈字

華翁墨蹟

達磨像 大聖國作賛

大燈法語 同字

四祖五祖 停庵賛

德山像 寶傳賛

寒山顔輝
拾得同

一山國師墨蹟 一行書 南無慈悲方行菩薩

猿猴 牧溪
布袋 顔輝
猿猴 牧溪

明正院御筆消災呪

密庵和尚墨蹟

南浦和尚墨蹟 紹州人、伊丹屋宗哲書附表具小堀遠州不命也

蘭溪和尚所書金剛經 折本

大燈國師所書濟大川錄

栗 柿 牧溪筆 相阿弥外題有之 菓子繪一云

誠子内親王所書俊成卿之色紙

妙吉祥院所書六歌仙

千利休寿瓢庵文

瓢中 世付やまと
ちりうやく又ゆうみ
やうくらるさと

利休

一巻 一幅 一幅 一部 二冊 二幅 一枚 一枚 一幅

惟然香合　樹下人形紋入　文字附　一箇
圓香合　小坂遠州案附
千利休所藏　宗及伝之
下土茶碗　九つ法　一箇
唐物九壺茶入　箱蓋遠州書之　一箇
同文琳茶入　箱蓋小翠岩珉和尚書
袱紫文琳
袋萠黃金尽し
大通菴
宗達ノ菴あり
大通菴ハ宗及ノ女婿津田

同　鶴頸茶入　箱蓋江岩和尚筆　一箇
鶴頸唐物
飛茶瓢簞茶入　箱蓋小西茶あり　一箇
瓢形　江岩
池滴天目　小黑ノ唐紫ニ白星内外あり　一箇
黑ノ瑠璃色ノ有星
黃色白色ニ交る
曜變天目　黑ノ瑠璃色ノ有星　一箇
黃色白色ニ交る
臺　池滴ニ添　小振黃瓦形青貝菊文　一箇
ホフヅキ内不殘朱塗
足内ニ　天　目ノ字カ
彫付
盆　九金法　黑塗黃　形　一箇
外ノ線曲

内赤盆　九内外朱塗外の櫛小牡丹。菊。梅。山茶花。
公四ヲ公彫刻を者　一箇
茶　扨　宗及伝　筒小更茶　伝とあり
当當山の什寶　数百品あり　一本
記を事　徒らに　故にちくふ器次

塔頭繪揉

○靈山德禪寺　開祖徹翁和尚諱義亨　開山大燈應安三年五月
築山あり　山中小珍瓏閣　九日寂　賜大燈　大現國師　相伴人　寺　池
今の仏源　書德及び　寺茶の民　茶
今は書徳の茶屋安居院門　影閣あり　池中　舟を隱す　燈籠
あうみ　田彫とあり　乃壺小の燒物
の東南ふあり　塔頭　寺一位之
茶日神祠　鎮座　龍虎画

客殿襖

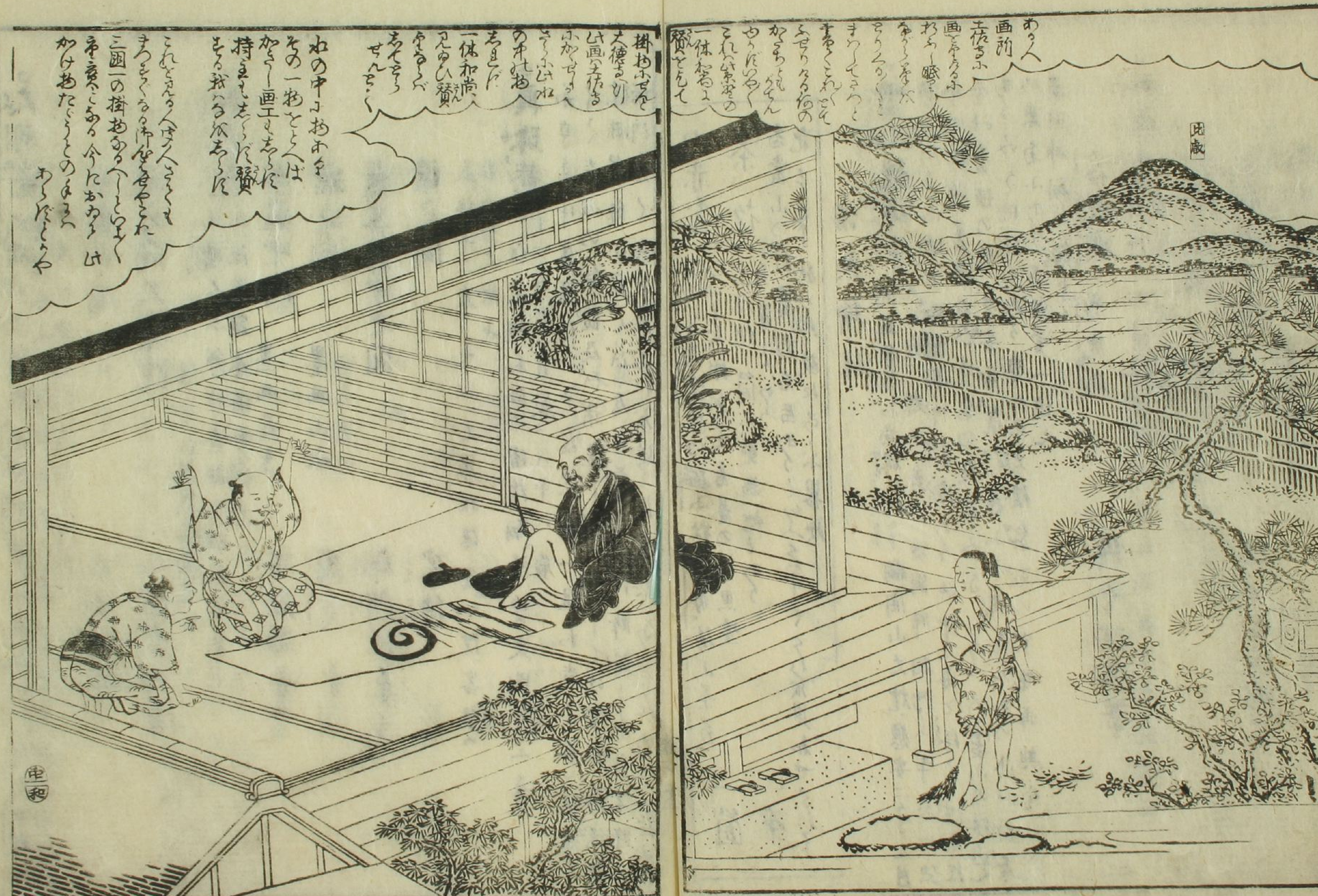
○如意菴　密傳正印禪師言外宗忠和尚應安中所創也
塔不　浸奈良帝宸筆

如意菴額　浸奈良帝宸筆

客殿中之間　墨画山水　狩野古法眼筆

檀那間　墨画西湖圖　同筆

狩野探幽筆


むかし
画所
土佐なにがし
画をかゝれて
わらし一幅に
何かゝれと
とらくらく
まいりけるに
書くことなくて
ふでにてくるりと
かゝりしを
まゐらせけれ
これは何ぞの
一休和尚に
賛をかきて
掛物ふせんを
大徳寺へ
此画へ土佐なる
ふかくせず
さらば此ぬ
の中にお
書きたる
一休和尚へ
賛をかいて
しんぜう
せんと申く
ぬの中におかき
その一物とは
かりし画工も書かざ
持主も書かざ賛
する我ゆゑ書かぬ
これぞ名人はみなたくみ
まふとる御座やれ
三国一の掛物なりといひて
やがて今にかかさく此
かけ物たからのまへ
かきたるとや

○大用菴　大機弘宗禪師華嶽宗曇和尚の開創也應仁後宗誠與濱田方丈の
ゆかりあり其後松源の門門ゆかりこと

客殿中間　古法眼筆

禮之間大書院　小栗宗丹筆

○松源院　正續大宗禪師春浦宗熙和尚創之
松源院額春浦和尚筆

客殿中間　墨画花鳥　古法眼筆

禮之間　墨画山水　周文筆

舊客殿中之間　相阿弥筆

禮之間　宗律

永祿十二年ノ冬以二大用松源一爲一院客殿ト
古ヘノ大用也

○真珠菴　一休宗純和尚の塔所開華嶽文明十三年
永享年中建應仁の乱後宗誠一休和尚と仏と同
十一月廿二日寂ス八十八歲
じく嵯山の伽藍及び諸院を営み住して次第に繁盛後
宗誠等師ゆゑ法を受け師弟の礼を尽し法を受ける人
塔所悉く兵火に失れ公遂に先師の於是

院如意大用等の祖師
酬恩菴ゆゑ寂に宗誠乃ち後一休和尚新村
師の塔所なり方丈の山ゆゑ宗誠ハ泉州堺の人
俗名尾和四郎左衛門文亀元年十一月廿日没法号迴溪

客殿中間　墨画花鳥　曽我蛇足筆

禮之間　墨画真山水　同　筆

書院　竹ノ山水　同　筆

檀那ノ間　四季山水　長谷川等伯筆

夜躰ノ間　観子猫頭　同　筆

何似之額　一休和尚筆

○養德院　仏心大弘禪師實傳宗真和尚塔所初ハ祇園の
地ゆゑ世尊ゆゑ移る後德禪院の南にあり
○養德院殿勝從一位左大臣源滿義林ゆゑ小川殿ト應永
廿八年正月十日薨五十一某足利義詮の男義滿と同母
の弟なり母ハ心佛居法院通信法下の女

客殿中間　芦屋

禮之間　墨画山水　小栗宗丹筆　周文筆

檀那間　彩色　琴碁書画　同　筆
衣鉢間　墨画　山水　小栗宗丹筆

○南禅院　仲琴大圓禅師東渓宗牧和尚塔所本山の南ふ
永正年中紀州大守畠山修理大夫義豊造立ス仏義隆
天正二年家臣遊佐氏ガ為ニ焼殺ス仏

客殿中間　墨画列仙　等伯　筆
禮之間　彩色　山水　同　筆
檀那間　墨画猿猴　同　筆
龍源院額　朝鮮　梅屋　筆

○北禅院　正法大聖禅師古岳宗旦和尚塔所本山のふふあり
故ニ小汎と云　永正年中ニ建

客殿中間　墨画山水　相阿弥　筆
禮間　墨画耕作　狩野雅楽助　筆
檀那間　彩色　花鳥　古法眼　筆
衣鉢間　墨画祖師之図　同　筆

大書院　朱賈人西王母　大公望
庭中名巖　有二十貫　林泉　同　筆

法螺石　布袋石　神鞍石　相阿弥作
沈香石　寶山石　伏虎石　観者石
臥牛石　仙帽石　拂子石　釣舟石
佛子石　獨醒石　明鏡石　佛盟石
壺亀石　座禅石　真珠石　不初石
杖光石

○興臨院　南日暮門内　仲智大道禅師小渓紹然和尚塔所　文文年中
傳義德創天文十二年七月十二日卒　紀州畠山左衛門佐義綱建立　法号興臨院
加州大守大納言利家卿重修　法号
高徳院勝一位慶長四年閏三月三日卒　六十二歳

客殿中間　墨画山水　古法眼　筆
禮間　彩色　麝香猫　同　筆
檀那間　彩色　土佐光信　筆

興臨院額　為日本國天啓和尚大明梅屋方伯行書　八十六字了

南
○瑞峯院　号應天滿國師徹岫宗九禪尚塔所興隆の南に在
天文二年天友方湯門督義鎮造立義鎮は天友能登守
義鎮の男　天正十八年五月廿二日卒五十八号瑞峯院
仏庵宗麟

客殿中間　墨画七賢四幅　狩野父祥画　古法眼筆

禮の間　為彩色花鳥　松栄直信筆

檀那の間　彩色堅田圖　土佐光信筆

瑞峰院額　後宗呂帝宸筆

北
○聚光院　方丈のかゝあり　祖心本光禪師　無学祖元禪師　宗新和尚塔所
永禄九年三好左京大夫義継父子殺害　大友宗麟造立
四州及び京畿の二州等を領し義継は天正元年十一月
六日河州若江城に於て信長の為に自殺
信長の為に自殺

客殿中間　墨画松竹梅　狩野永徳筆

禮の間　芦雁　同　筆

檀那の間　墨画山水　同　筆

琴隠素画　同　筆

林一二十五

北
○總見院　白毫院　開祖　遠之大慈廣照禪師　古溪和尚大悲
廣通禪師　王南和尚の為に建立　聚光の西に
あり　天正十年中秀吉　右大臣信長公の為に建立信長は
天正十年六月自殺四十九歳　號總見院殿　從一位太政
大臣。秀吉公は慶長三年
八月十八日薨　次六十三歳

客殿中間　墨画山水　長谷川等伯筆

禮の間　墨画山水　同　筆

檀那の間　猿猴戯　同　筆

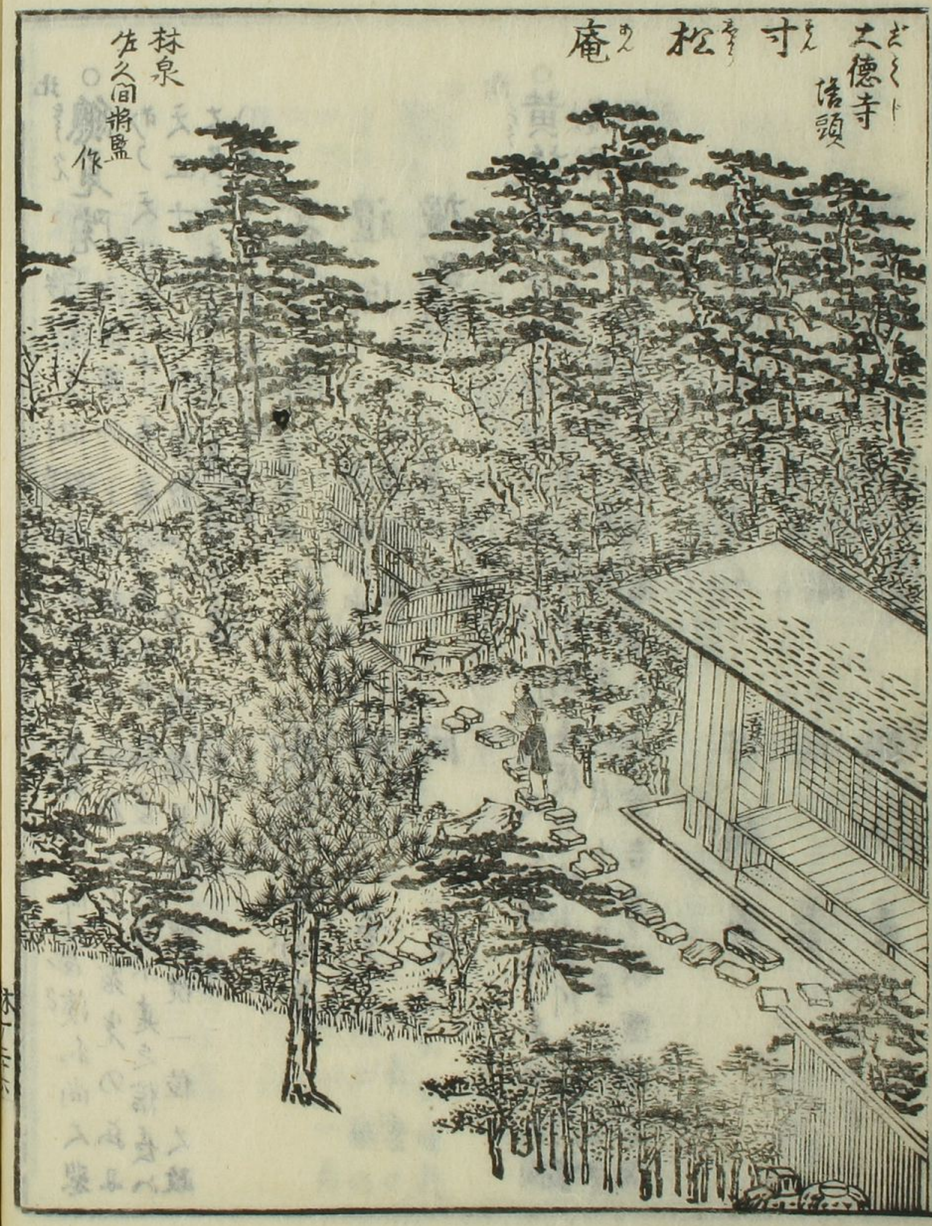
墨画芦雁　同　筆

南
○黄梅院　昊山德禪の西にあり　仏通大心禪師　妙心寺林和尚
塔所　天正十一年中納言従三位小早川左衛門督
隆景の造立　隆景は慶長二年六月十二日卒　六十四歳
號黄梅院殿　泰雲紹甫　隆景の子金吾秀秋　湯殿禪元相
為外護

客殿中間　七賢人　等顔筆

禮の間　墨画芦鴨　同　筆

檀那の間　墨画西湖圖　同　筆


大徳寺
法頭
寸松庵
林泉
佐久間將監
作

其貳

早稲田大学図書館
011688994766